

なきごえ



1983

6

大阪市
天王寺動物園協会

渡辺徳介



あれは、1958年7月20日昼のことだった。オランウータンの赤んぼうが、はるばる赤道直下シンガポール、ホンコン経由羽田空港、そして多摩動物公園に到着した。獣医室附属病棟の移動檻に仮収容されたオランウータンは、檻の奥すみに身を縮めている。輸送箱の送り状注意書きには、オランウータン、メス、推定2.5才、体重8.7kg、給食回数、量等が、記されていた。病棟には、園長をはじめ原衛生係長、松村、桑川両獣医と、新米獣医の私であった。

オランウータンの子を、間近に見るのも初めてであった私は、魅せられてしまった。ほわほわとした頭の毛、柔かそうなお椀のような口もと、知的なひとみ、それでいてどこかにしんのおった生活力を持っているように、見えた。オランウータンの子は、じっと角の方ですのこ鉄格子を握り、こちらを見ている。私はいつのまにか、檻の前にかがみこんでいた。じんと足にしびれを感じていた。急にあたりが静かになり、室内には西日がさしこんでいた。

室内には、誰もいない私とオランウータンだけであった。とうに私の足は、他人のもののように感覚はなくなっている。私は、さっきからオランウータンの視線を感じながら、彼女の全体に視線を合わせていた。彼女に動く気配を感じた。私もほほえみかけるように移動檻の鉄格子を握る。岩か木に化身したようにじっとしていると、彼女の右足は奥の鉄すのこを、しっかりと握りながらも体を斜めに引き出すようにして、確かめるようににじりよってきた。

温たかな唇が私の手の甲にふれた。いつのまにか私の前にちょこんと、しゃがみこんでいた。檻ごしに手を、いや指を伸ばして顔や作業服にふれていた。“オーイ、とくさん 先に帰るぞー!!”あたりは、暗く病棟の上には、園長公舎の明りが見えた。

麻袋を入れてやり、また明日と呼びかける。数時間前に緊張して、おびえた動物と思えないように、ピープューっと甘えるように鉄格子の間から指を出す。この子を置いて帰るのかと、心がいたくなる。

翌朝早々に出勤して、お早ようと病棟の扉を開ける。麻袋の中から顔をのぞかせ目をこすり伸びをすると、甘えるように格子の間から指を出してきた。昨日の出逢いは、成功であったようだ。

何かいい名前はないかと、シンガポールで英国人に飼われていたと聞き、アルファベット順に英名で呼びかける。発音の悪いせいか、J又はGに反応してくれる。ジプシー、そうだジプシーにしよう、今日からお前は“ジプシー”だよ。

それから2年後、雄のオランウータン2才が来園した。林寿郎園長が、雌が“ジプシー”なら雄は“ドン・ホセ”がよかろうと命名して下さった。その1年後、インドゾウ舎の2階に獣舎が出来てジプシー、ドン・ホセ共々、獣医室から引越した。

オランウータン“ジプシー”との出逢いが、今よみがえろうとは、全く思ってもみなかった。釧路市動物園に類人猿舎を造ることになった今、オランウータンの雌は、どうしてもジプシーの血を引いたものが欲しかった。東京都多摩動物公園をお願いして、協力して頂き、“ジプシー”の次女“サリー”の子“ロリー”が来園することになった。ジプシーの初孫にあたるロリー。子供のいない私にとって、ジプシーの孫を迎える喜びは、ZOO-MAN冥利につきる思いである。(釧路市動物園長)

表紙の写真説明

“オーストラリアヒクイドリ”

ヒクイドリはオーストラリア大陸やその周辺の島々に分布して、それぞれの生息場所で3種にわけられています。オスとメスの体の大きさが極端にちがひ、オスはメスの半分ぐらいしかありません。

(撮影：大野尊信)

なきごえ6月号もくじ

動物と私 2
“袋の中からこんにちは” 3
動物園グラフ・動物園日記 4-5
天王寺の動物たち ㊸ 6-7
クロオオカミの人工哺育記録 ① 8-9-10
第9回天王寺動物園サマースクールのお知らせ 10
動物園ニュース 11



“袋の中からこんにちは”

袋の中から顔を見せているのはオグロワラビーの赤ちゃん。4月末から袋の外へときどき出るようになりました。でもこのように袋から顔を出すことはあまりありません。たいてい足だけが見えます。

(撮影：森本委利)

動物園グラフ

“すくすく育つくろオオカミの赤ちゃん”

2月22日、日本の動物園では初めての中国産クロオオカミの赤ちゃんが8頭誕生しました。4頭を人工哺育で、残る4頭を母親が哺育しました。今回はこのオオカミの赤ちゃんの哺育状況を集めてみました。
(撮影：野口秀高、榊原安昭)



*生後5日目
1日の哺乳量も120ccと順調です。



生後1週間までは人間の未熟児用の哺育器を用いました。温度と湿度の調整には気をつかいました。



*生後30日目
ヌイグルミの人形と一緒になんとなく安心感があるようです。



*生後40日目
離乳も順調に進み、哺乳は1日2回になりました。

4・5月の動物園日記

- 4 / 20. クロオオカミの雌の子が左前あしを骨折したので治療を行ないました。
- 4 / 21. 自然哺育で育ったクロオオカミの子を、母親とともに父親と同居させました。
- 4 / 22. チンパンジーの雌2頭が下痢気味なので、治療を開始しました。
- 4 / 23. オグロワラビー“ブッチャー”の子が今日始めて袋の外へ出ました。
- 4 / 24. 春の動物園祭が本日より始まりました。クロオオカミの人工哺育の子どもたちを、本日より中獣舎にて展示はじめました。

- 4 / 25. キョンが1頭出産しました。
- 4 / 26. オーストラリア・クイーンズランド州にあるローンパインコアラ保護区のパット・ロバートソン氏が来園、見学されました。
- 4 / 27. 雌のムササビの“モモコ”を、雄の“長作”と同居させました。
- 4 / 29. キーウィ3羽の測定を行ないました。キーウィ舎の冷房を始めました。
- 5 / 1. ベンガルトラの子が4頭生まれました。
- 5 / 3. ジェンツーペンギンがアスペルギルス症で死亡しました。
- 5 / 4. シュバシコウのヒナを3羽確認しました。
- 5 / 5. ゾウの計量会が行なわれました。春子が



*生後50日目
体重も3500gをこえ、動作も一段と活発になってきました。



*生後50日目
ブラッシングや朝夕の散歩にも慣れてきました。



*生後70日目
鼻すじも長くのびてオオカミらしい顔つきになってきました。毛色は灰褐色です。



〈母親の育てた4頭〉

*生後70日目
人工哺育のものに比べると体も少し大きく、体は両親と同じ黒色の毛色です。

4090kg、ひろこが2620kgの体重がありました。

- 5 / 6. マナヅル舎に巣材を入れました。
- 5 / 7. タンチョウの雄が起立不能となったため、入院治療を行ないました。
- 5 / 8. チリーフラミンゴが巣作りを始めました。
- 5 / 9. 昭和24年より当園で飼育展示されていたタンチョウの雄が肝臓の腫瘍で死亡しました。
- 5 / 10. アオバズクを1羽保護しました。野鳥展がはじまりました。
- 5 / 11. クロサイの早が軟便のため投薬を行ないました。
- 5 / 12. オオゾガメを1頭保護しました。

闘争が激しいため、クロサイの雄と雌を隔離しました。

- 5 / 13. キーウィ舎の土を入れ替えました。
- 5 / 14. フサオマキザルの出産が近いようです。
- 5 / 15. 野鳥週間にちなむ野鳥相談が大阪府庁自然保護課と当園との共催で行なわれました。
- 5 / 16. クロザルの早が左肩に裂傷を負ったので、治療を行ないました。ダルマインコが3羽自然ふ化しました。
- 5 / 17. ムクドリの子を1羽保護しました。
- 5 / 18. 南園池でアヒルのヒナが9羽ふ化しました。
- 5 / 19. タヌキの子が6頭生まれました。

ラ マ



父親のゴロー

§ はじめに

北園ラマ舎の前を通った時、小さな女の子が母親に説明をしていました。

「お母さん、これねラマという名前よ。顔がラクダで体がウマに似てるでしょ、だからラクダのラとウマのマでラマという名前がついたんよ」

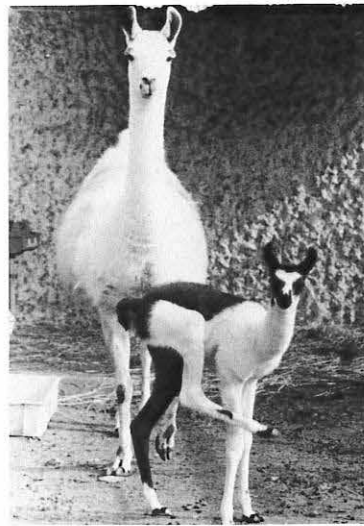
子供の発想はとても楽しいものが多いですが、なかでもこれは面白いものでした。

§ ラマの仲間

残念ながらこのお嬢ちゃんの見解は半分正解で、半分ははずれています。つまりラマは確かにラクダの仲間ですが、決してウマの仲間ではありません。

今から4、5千万年も前ラクダとラマの共通の先祖は北アメリカで誕生しました。この動物は永く北アメリカにいましたが数百万年前あるものは当時のベーリング地峡を通してアジアへ、あるものは中央アメリカを通して南米へ渡りました。そしてアジアやアフリカに着いたものはラクダに、南米へ着いたものがラマの仲間となったのです。

ラマの仲間にはラマ、グアナコ、アルパカ、ビクーナの4種あるとされています。が、ラマとアルパカはグアナコを家畜化したものである、とか、アルパカはラマとビクーナから作ったものである、とか、

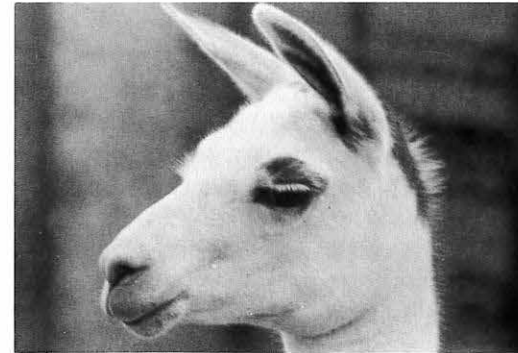


子供は足が長くとてもスマートです

§ 有用な家畜

ラマは現地のインディオにとって大変重要な動物でした。つまり大変多目的にラマは利用されています。インディオ達の暮すアンデス山脈は大変高い山々でとても寒いところ。こんなところでは平地に住むウマやウシは使いものになりません。高さが4、5000mもある山中で数十kgの荷物を運搬できる

色々な説があり確定していません。現在野生に居るのはグアナコとビクーナだけで、ラマとアルパカは野生にいません。ここではラマは家畜化されたものが残っていて野生のラマは滅びたとしておきましょう。



長いマツ毛がとても印象的です

のはラマだけです。こんな高山では空気も稀薄ですから、ここで暮すラマの体内で酸素を運ぶ赤血球は他の哺乳類と違った構造になっています。また肉はもちろん食料になりますし、特に1才以下のラマの肉は大変なごちそうです。皮下脂肪は加工してロックになりますし、毛は暖かな織物になります。寒い高山に住む人々にとってとてもありがたいものでしょう。最近日本でも時折見かけるポンチョも元はこのラマの毛からの織物です。また古代インディオはラマの毛からヒモを作りその結び目で文字を作ったと言われます。このようにインディオの生活とラマは切っても切れないものがありました。

しかし、今から約4000年も前から家畜化され、こんなに有用なラマも最近人間が考え出した、車や飛行機、電車やもっと経済的に織物のできる羊毛にとってかわられて、その大切さは段々と少なくなっているようです。



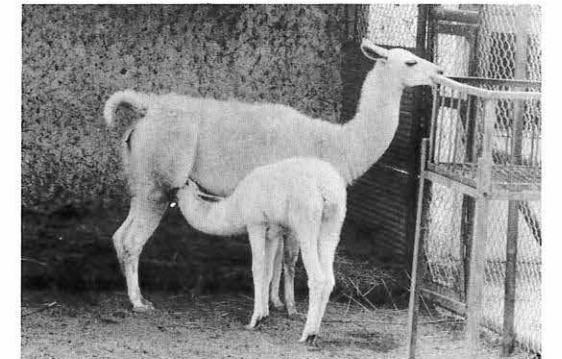
出産直後でも赤ん坊は首を立てることができます

ラマはグアナコやビクーナと違い体の色が多種多様です。黒っぽいものから茶色のもの、うす茶から白まで様々です。その上、大小様々な斑点もあります。天王寺にいるオスのゴローは白に茶色の斑点が

ありますし、メスのホワイティーは名前の通り殆んど全身真白です。こんなに様々な色の変化があるのが家畜の特徴でしょうか。

§ 繁殖

オスは発情したメスに近付き交尾をしますが、この時まだメスの方が十分発情していない場合当然メスはいやがって逃げます。こうしてメスが自分の意に添わないとオスは怒ってメスに向かってペツとツバをかけます。時には臭い胃液までもひっかけることがあります。こんな臭いものをひっかけられたメスはさらにいやがって逃げてしまうでしょう、まったく人間の子供のようなことをします。これは人に対しても同じでいやなことをされるとその人に対してよくツバを吐きます。ですからラマのお相手をする際には御機嫌をそこねないようにすることが肝心です。



ラマの母親の愛情も大変細やかなものです

ラマの妊娠期間は約11ヶ月とされています。母親の子供への愛情は他の動物と同じく大変細やかです。体をなめてやったり、オッパイを飲ませたり、子供がヨチヨチと歩き出すとすぐ付き添ってやったりしています。生まれて3週間もすると子供は親のエサを食べはじめます。そして4ヶ月位で独立ようになります。こうなると親は子供としてよりも群の仲間として子供と付き合う事が多いようです。

今年の5月21日、ホワイティーにメスの赤ちゃんが生まれました。母親のホワイティーにとっては7頭目、父親のゴローにとっては10頭目の子供にあたります。

これからとても暑くなりますが、暑い中でラマの母親がどういう具合に愛情深く子供を育てるかは非動物園に来て見てやって下さい。

(長瀬 健二郎：飼育課・獣医師)

クオオカミの人工哺育記録

(1) 出産から生後30日目まで

§ はじめに

本年2月22日、当園において日本では初めての中国産クオオカミの出産がありました。8頭生まれた内、4頭を人工哺育、4頭を母親にまかせましたが、8頭全て成育に成功しました。今回はその第一報ということで、両親の飼育経過と仔の人工哺育経過(生後30日まで)をご紹介します。

§ 両親の来歴

昭和56年10月28日、中国・上海市動物園より第4次動物交換として2頭のクオオカミが来阪しました。昭和55年



左が父親の平平、右が母親の義義
動物園の動物として使命を果たすことになりました。

§ 飼育経過

入園した最初の冬、ひょっとするとメスに発情がくるかもしれないと期待していましたが、残念ながらその兆候はありませんでした。その翌年の冬の発情に期待するために、昭和57年の春から特別メニューの給餌を開始しました。従来からの馬肉、鶏肉以外に週一回、生き餌としてニトリを与えることにしたのです。また11月にはいって本格的な発情シーズンを前に餌の中にビタミンA、D、Eの添加も開始されました。

昭和57年12月20日からメスに待望の発情が認められ、12月25日までの6日間、毎日交尾が確認されました。1日の交尾回数は3~4回、交尾している時間は短い時で1分、長い時で8分間続きました。交尾の動作は犬と全く同じでした。

§ 出産

12月21日より出産と保温のために寝室に敷ワラをたっぷり入れました。そしてうす暗く保つために飼

育者通路に面した金網に麻布をつるしました。

翌昭和58年2月、まず4日頃から徐々に腹部の膨大が目立つようになってきました。12日、腹部の脱毛が始まりました。13日、乳頭がわずかに見えるようになってきました。21日、夕方に寝室に収容後、オスがメスを呼ぶように、鼻にかかったような声で悲しそうに鳴き続けました。普通では見られない行動でした。

そして当日の22日の朝、中獣舎に行きクオオカミの寝室へ近付くと、仔の鳴き声らしいのが聞こえました。数頭の仔の声です。4、5頭いるのではと思いましたが、その時は確認できませんでした。母親も落ちついているようなので、午前10時半、思いきって頭数を確認することにしました。ワラを巢のように集めた中に、まっ黒な赤ちゃんがうごめいていました。ライトをあてているので、まっ黒な赤ちゃんとも黒い影との見分けがなかなかつきません。それに母親も警戒しているので、かなりあせりました。それでも何度、数えても8頭いるように見えました。きょう一日はこれ以上の観察はしないことにして、鳴き声だけを通路から聞いておくことだけにしました。

§ 親仔の分離

翌2月23日朝、まだ仔の鳴き声が続いていました。こんなに鳴いているのは何か異常だと感じました。オオカミの乳頭数は8個あるとしても、それが全部十分にミルクが出るとは思えません。哺乳量が不足で、それで空腹の仔が鳴いているのではと考えました。たしかに8頭の仔は多すぎます。全てが順調に育つなどということはとても不可能のように思いました。係長と獣医師、主任をまじえていろいろと相談を重ねられました。結論は半数を人工哺育にしようということになりました。

午前9時15分、母親が仔の側を離れ隣室に移った一瞬を利用して母仔を分離しました。この母親の糞と尿をなすりこんだ手袋をはめ、とにかく小さい仔から順に4頭をとりあげ、用意した箱に収容しました。結果的には人工哺育用にとりあげた仔がオス1、メス3、母元に残した仔がオス2、メス2の割合でした。

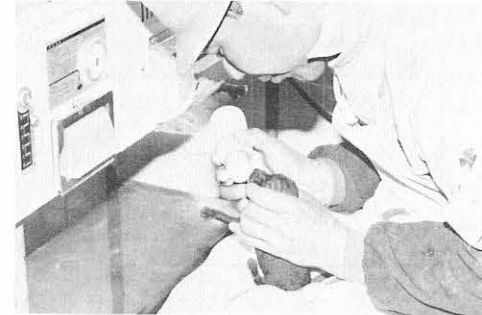
私の不安は人工哺育そのものより、母親の方に残した仔に母親が危害を加えないだろうか、また母親は仔を4頭も失ったことで育児を放棄しないだろうかということでした。人工哺育の仔オオカミを人工哺育器に収容して性別の確認、体重測定、哺育器内の温度、湿度を確かめると、すぐに中獣舎へと引き返しました。

午前10時30分、母親が残る4頭に授乳をしているのを見た時は、よかったという安心感で一杯でした。この後は、仔の鳴き声も聞かれなくなり、安否を確

かめる手段は仔のお腹のふくらみぐあいを見るのが唯一の方法でした。

§ 人工哺育

2月23日(生後2日目)、午前11時、手元に引きとった仔の人工哺育を開始しました。ミルクは肉食獣用ミルク(エスピラックリキッド)を用いました。哺乳器具は仔犬用の哺乳器を使用し、哺育器は最初の一週間は人間の未熟児用の哺育器を使用し、以後成長にしたがって手作りの哺育箱を用いました。



生後5日目

哺乳は最初の一週間は各自の様子を見ながら哺乳を行いました。最初の日は全くミルクを受けつけてくれず先が思いやられました。4頭を哺乳するのに2時間以上もかけて飲まずものですから、4頭目の仔が終る頃には最初に飲ました仔がもうお腹をすかせているため、もう次の哺乳が始まるような状態でした。人工哺育を開始して最初の7日間は泊まりこみです。夜中に心配になって何度、哺育器の中をのぞきこんだことでしょうか。すやすやと眠る仔を見ると、やっと私も安心して眠りにつけました。

排便した糞便の内容から判断して、4頭の内1頭は母乳を飲んでいなかったのではないかと思います。そのためか、人工のミルクと哺乳器に慣れたのも、この仔が一番最初でした。

ミルクと哺乳器にもなれると、仔の成長は目ざましいものでした。とにかく成長が早いのです。生後6日目に哺育器内で仔同士の吸いあいが始まりました。お腹がすいて起きるみたいですが、まだ目もあいていない4頭がミルクを求めて、相手の足や腹に吸いつくのです。吸いつかれた方は皮ふが赤くただれてしまい、とても放っておくわけにはいきません。とりえず哺育器の中に仕切りを入れて、2頭ずつに分けてみました。しかし2頭ずつでもこの吸いあいが続くため、生後7日目からは1頭ずつに分けました。ところが今度は1頭でさびしいのか、哺乳後もすぐ眠りにつこうとせず、落ちつかない様子で鳴きながら、はい回りました。なんとか落ちつかせて眠らせなくてはなりません。その時、ふとした思いつきから、仔の倍くらいのヌイグルミの人形を1個

ずつ仔の側に置いてみました。効果てきめんとはこのことでしょうか。仔たちはこのヌイグルミを自分の仲間と思ったのでしょうか。この人形を枕にして安心して眠るようになりました。起きている時はこの人形は格好の遊び相手にもなりました。

普通、肉食動物の赤ちゃんを人工哺育する場合、陰部をマッサージして排尿、排便を促してやりますが、今回のクオオカミに関しては自力で排尿、排便をするので飼育面では助かりました。しかし勝手にあちこちで排便するため、床面に敷いてあるタオルが常に糞尿で汚れ、そのためこれらのタオルの洗



生後30日目、人形と一緒に

濯に追われるのにはまいりました。母親が育てている方も、母親がなめて排便させているようではなく、仔自身が自力で排便を始めると母親が始末してやっているようでした。

目は生後15日目頃から開き、歯は17日目頃から上顎の門歯がはえ始めました。視力がついたと思われるのは生後21日目頃からです。

生後10日目頃までははいつくばって動くという感じでしたが、生後12日目頃から四肢でふんばって歩くという感じになってきました。よく眠っている時は鼻鏡は乾燥していますが、起きている時は常に湿っています。この鼻鏡を湿らすことによって、匂いをかぐ能力が発揮できるのでしょうか。

哺育箱の温度は最初は30~32℃、湿度70~80%でしたが、徐々に下げて5日目で28℃10日目で25℃位としました。

哺乳回数は前述したように、最初は時間をかけて24時間体制で行ったものですから、1日に7、8回哺乳させました。10日目から6回、17日目から4回、26日目から3回と減らしていきました。

病气らしい病気はほとんどありませんでした。わずかに下痢を数度、これは整腸剤を続けることによって解消しましたし、2頭が尾を化膿させ数日間、手当をした位です。

生後26日目から離乳を開始しますが、これ以後の詳細については第2報で報告させていただきます。

(飼育課：丸本 守)

(10ページに体重、哺乳量のグラフ掲載)

すてき満喫

近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店 お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京路店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

オールカラー

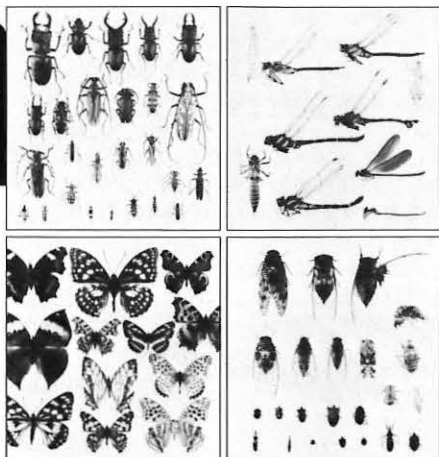
むし

くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかった自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

85ページ 580円

ひかりのくに株式会社
〒543大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

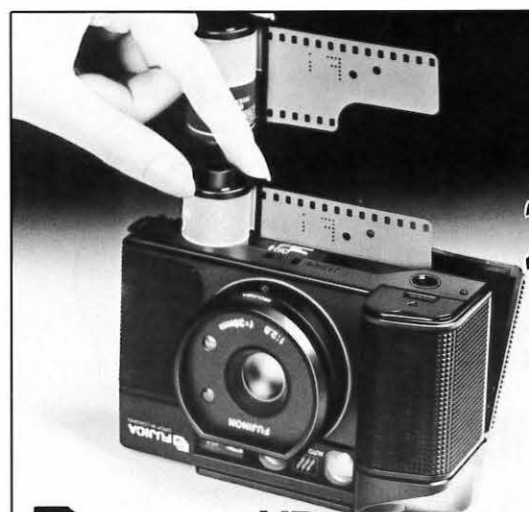
◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購読をお奨めします。
年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ
TEL 06-771-0201



フィルムポン!

世界で初めて「ドロップイン機構」を搭載!
フィルム装てんが新しくなった—フジカ
オートエース&オートメイト新登場!

フジカラーHR

—FUJICA—
オートエース
DL-100 DATE
標準価格49,800円

かたらの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

◎ 動物のことなら あらゆることにお役に立ちます。

- 飼育指導 (ペットよろ)
- 飼育指導 (ペットよろず相談)
- ふれあい子供動物園
- ふれあい動物写真会
- 撮影用動物モデルリース
- 動物(ペット)、教材用生物販売、リース、交換、引取り、預り
- 各種飼料、器具販売、配達

自然から学ぶおもいやり

株式
会社

アニマ

(いきもの110ばん)

☎ 06-863-1025 (代表)

〒561 豊中市利倉2丁目22-2

全国の愛犬家の共感を呼ぶ
無比の愛犬歌集

歌集 犬の歌

動物文学会主宰
平岩米吉著

(天金美装・箱入)
目 6判・270頁
2500円・千不要
(直接申込)

著者が、約40年の間に、共に暮した70余頭の犬の生と死を歌った419首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る写真47図を収め、犬の一生の生態写真集でもある。

動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

日本図書館協会選定
全国学校図書館選定

狼

その生態と歴史

犬科生態研究所長
平岩米吉著

A 5判・320頁・
口絵挿絵等140図
定価2800円・千300円

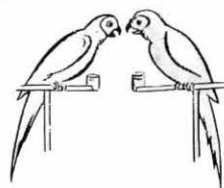
待望の日本狼の正史ついに完成!

☆犬科動物の研究者として、当代随一の著者が、数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の目をもって描いた空前の書。
☆日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

- | | |
|------------|-----------|
| 序 狼への幻想と現実 | 5 狼の伝説 |
| 1 犬科の分類と解説 | 6 日本狼の特徴 |
| 2 犬と狼の関係 | 7 日本狼の絶滅 |
| 3 日本狼の歴史 | 終 狼を飼った人々 |
| 4 狼狩の記録 | |

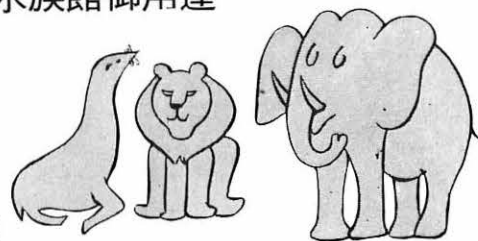
発売 株池田書店 東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

1回 20円

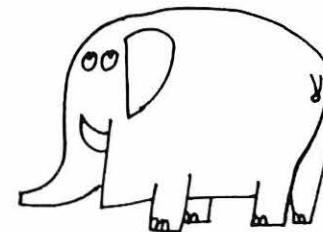


……………ぼっちゃん
……おじょうちゃん
どうぶつえんへ……………
いらっしやいませ……………
ごきゅうけいは……………
おしょくじは……………

動物園内北園 中央売店

☎ (06) 771-0973

天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶白山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますので説明に伺いました際は、よろしくお願ひ致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ 昭和58年6月15日発行(毎月1回15日発行)

第19巻 第6号 (通巻214号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

電話 大阪 (06) 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

振替口座 大阪 37823

1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員 (橋本 一郎・土井 良彦・樽本 勲・中川 哲男・宮下 実・長瀬健二郎)
(榊原 安昭・森本 委利・大野 尊信・葭谷 文彦・農本 武志・野口 秀高)
(仲谷 登・小出 雅三・板野 健一・石島 宏胤・柴田 総)